

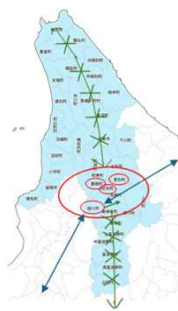
施策分野：食、観光、交通・物流、安心・安全

アクション：デジタル技術による豊かな食と観光資源を活かす安心・安全のスマート旭川＝AI旭川

上川中部A

地域の状況整理

Where どこで



概略
高速・JR・空港等交通要所であり、河川の合流点、道東方面とのアクセスは良い
産業集積地（市街地）と周辺の豊かな自然・その恵み（米・酒等）食イベントが盛ん
スポーツ施設が充実（スキー、ゴルフ、球場、体育館他）しておりオリンピックメダリストを多数輩出

What なにを

概略
全体的に「稼ぐ」と「暮らす」に満遍なく政策整理が記されており、豊かな自然環境からなる農業、しっかりとした生活基盤の上にまちづくり（商工振興）や観光誘致に向けた政策が求められている。
全国共通の政策課題として、当地においても人口減少、若年層。産業の担い手の不足、空き家の増加等が挙げられている。

アクションプラン設計のための行政政策分野別整理シート									
産業振興「稼ぐ」地域づくり					生活基盤整備「暮らす」地域づくり				
産業振興		交通拠点整備			環境・ハード整備		教育・医療		
農林水産	商工	観光	文化コミュニティ	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療
質の高い農産物 稲作がさかん 米・日本酒・水がおいしい 米・野菜 雪、堆肥	大手企業がやってこない 地震がない地がある ⇒大手企業の工場誘致 シャッター街 ⇒新規開業 人手不足 デジタル⇒ECサイト	旭山動物園 おいしいラーメン 食イベント 美味いものが多い 観光客の体験的なものが少ない インバウンドの客を含めホテルが少ない ワイン・ステーキ・インバウンド呼ぶ インバウンド×地域通貨	デザイン都市（ADW） 結束力 旭川周辺のまちは元気がある 東川・東神楽 後継者募集 やりたい若者が事業の引き継ぎ 人手不足 ⇒外国人 ⇒国際交流化	人口減少 人手不足 人口流出 後継者募集 やりたい若者が事業の引き継ぎ 人手不足 ⇒外国人 ⇒国際交流化	自然 森林 四季の変化がはっきり（楽しめる） 川が多い ⇒ウォーターフロントの開発 カーボンニュートラル ⇒ゴミの増減 ⇒循環型地域 雪の冷熱利用 ⇒データセンター等の誘致	北海道東2の都市・旭川 定人の人口・生活環境 札幌につながらる道路、鉄道 空港から市街地まで距離近い 車以外の移動手段が少ない バスの本数、タクシーの台数が減ってきている 自動運転ライドシェア	地震が少ない 水害のおそれ（川が多い） 除雪が札幌に比べ行き届いていない 除雪・排雪人員不足 無人除雪システム開発	学校（大学）が少ない 学生が多いので学生の活躍の場を 人口減少 ⇒きめ細かい教育	病院が多いしレベル高い

How どのように

When いつ

How どのように

具体的な活動	2026 1 年	2027 2 年	2028 3 年	2029 4 年	2030 5 年～ 9 年	2034 10 年～	2035 20 年～	目指す地域の姿
①ダンスを通したまちづくり	チーム づくり ・ 事業計画 の 事業づくり	高校インターハイ 資金あつめ			ダンス大会 優勝	ダンスといえば旭川メッカへ 魅力的なコンテンツへ		- 人口減少が進んでも住まわれている方の暮らしが便利 - 観光客の方が安心安全に楽しむことができる - 空家が増えても地域の景観が保たれる - 外国人労働者も安心して働ける - 効率的な仕事で時間ができる - 文化活動や趣味などに力を入れられる豊かな生活
②地域農産物を活かした食をデジタル技術を活かして提供		ニーズ調査 システムの検討			アプリ・ システム 開発	普及 展開	随時 更新	
③空家を民泊を活用し、観光客に泊まってもらうマッチングシステム								
④スーパーアプリの開発（観光、交通、道路、空き家民泊、EC決済、多言語対応、医療）								
⑤デジタル技術を活用した交通手段（ライドシェア、自動運転バス等）	事業計画の 事業づくり	郊外部で実証 （占冠・いねふぐ...）			実装化 高速道路	普及		
⑥除雪の自動運転化	チーム づくり	旭川空港で実証			での 実証	高速道路 で実装化	一般道へ 拡大	
⑦データセンターの誘致		誘致活動			建設	本格稼働		

アクションプラン

Who だれが

	チームメンバー	サポート
システム系 (アプリ・ダンス・空家)	・アプリ開発会社 ・ダンス部、各校ダンサー ・不動産会社 ・JA ・観光協会	・商工会議所・旭川医大 ・旅行代理店・ダンススクール ・医師会 ・農家 ・空家所有者
自動運転系 誘致系	・開発局・道・自治体 ・自動車メーカー ・除雪業者 ・バス会社・タクシー会社	・国交省、運輸局 ・北海道電力・ボーリング会社 ・測量設計会社 ・北海道エアポート ・NEXCO東日本 ・警察

実施体制

Whom だれに

～未来の地域づくりの担い手～
地域内：そこで暮らす人・子ども・高齢者層・交通弱者（車を運転できない人）学生
地域外：観光客・移住者・外国人労働者
（食の）消費者
特に
特に
定住へ

Why なぜ

「彼ら」のために何をしたいか？

・人口が減ったとしても、住人の暮らしを守る
・暮らし続けるためには、外から人を呼び込む（観光客、移住者） → かせぐ
外国人、
豊かな暮らしを実現する

ビジョン

施策分野：食、観光

アクション：地域密着型スポーツチームと観光資源を活用した食リンピック

上川中部B

地域の状況整理

Where どこで



概略
旭川駅や旭川空港といったゲートウェイがあり、周辺の美瑛や富良野といった観光地の玄関口を果たしている。食べマルシェなど食に関するイベントが多い。水田が多く稲作が盛ん。道北の中心都市であり経済・医療・教育などの機能が集中。市民運動が盛んである。

What なにを

概略
全体的に「稼ぐ」と「暮らす」に満遍なく政策整理が記されている。地域の強みである食（農業）やスポーツを活かすべき。著名な観光地である富良野・美瑛を中心とした食と観光産業の活性化を図る。

アクションプラン設計のための行政政策分野別整理シート									
産業振興「稼ぐ」地域づくり					生活基盤整備「暮らす」地域づくり				
産業振興		交流拠点整備			環境・ハード整備		教育・医療		
農林水産	商工	観光	文化コミュニティ	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療
強み 産業・米 大工 農作物が豊か 農業 米作り 自然が豊かで 農業がさかん 雪で貯蔵庫 (例) キャベツ 個人旅行を推奨 体験型の観光	寒暖差のおかげでお店が作れる 農泊 お店もできる 長期滞在の拠点になる 長期型旅行に誘 (長距離) 計画（旅程）を立てやすい 観光客がすごしやすい	観光資源が豊富 (交通インフラ含め) 自然が多い →アウトドア 紅葉、登山、堪能できる 美瑛・富良野など外国人観光客の増加 動線が限られている（PRポイントをしぼりやすい） 知らない町が多い（新規PR） 観光ルート形成（道北一？）で	障がい者スポーツ 全国の人たちが集まってくる町がつくられた ウィンタースポーツ 冬だけ移住する人もいる 避暑地になる サイクルツーリズム		自然の多さ どこでも空いている 空家を利用できる (人口減) 空き家×長期滞在 空き家への移住促進 雪を冷房に活用 スローライフを過ごせる	交通インフラが整っている 旭川空港の就航率 首都圏札幌へのアクセス 雪を冷房に活用	災害が少ない 地震が少ない 大規模な災害が少ない 災害の少ない 一企業誘致		穏やかな時間を過ごせる (人口減・高齢者)

アクションプラン

How どのように

具体的な活動	～3年	～5年	6～10年	11年後
①【農業×教育】	誰が進めるか検討	食リンピック初開催	道内で持ち回り開催	全国
②【スポーツ×教育】	連携等	ボランティアのような形でボレアスに参加してもらう	旭川のご当地料理を作る	農業体験者・学生が増える
③【スポーツ×観光】	冬季スポーツを活用した修学旅行	ふぞろい野菜クッキングスポーツ対決	農家さんの商品PR	
④【農業×スポーツ】食リンピック	修学旅行生が体験してみる Eスポーツの取り組みを広めていく	ご当地料理を作るためメニュー開発		

When いつ

How どのように

2035年 目指す地域の姿
旭川周辺の農家や農作物を盛り上げたい

- ・食リンピックといえば旭川
- ・知名度アップ
- ・旭川周辺の人のお金が潤う
- ・農業者に若い人が増える
- ・時間があるから旭川に行こう！
- ・スポーツゲームを活用して農業をPR
- ・Eスポーツのプロリーグ
- ・食で作った食リンピック料理をお店で出す（ご当地グルメ）

実施体制

Who だれが

コアメンバー：イベント企画会社、民泊業者、旭川農業高校インフルエンサー、DMO、プロスポーツチーム、ボランティア
サポート：交通事業者、飲食店、農家、加工業者、飲食販売業、宿泊業、学校関連、マスコミ、観光協会、信金、国の各省庁、旭川開建

Whom だれに

旭川周辺の農業者
旭川市民
全国全世界

Why なぜ

「彼ら」のために何をしたいか？

旭川を盛り上げたい
地域の活性化
人口増加？維持？
農業の担い手を見つける
旭川の食を知ってもらう
新たな旭川の可能性をひきだす
観光客の増加

施策分野：食、観光、交通・物流
アクション：魅力体験・情報発信プロジェクト

上川中部C

地域の状況整理

Where どこで



概略
自然豊かな雪はウィンタースポーツに最適でスキー場が近場に豊富、景観は豊かで広大な自然を有する
北海道2番目の人口を持つ旭川市の都市機能、道北地域の中心都市、比較的札幌市にも近い米、木材、温泉、観光（動物園、層雲峡、美瑛など）
大雪DMOや女性のつながり促進団体の活動も見られる

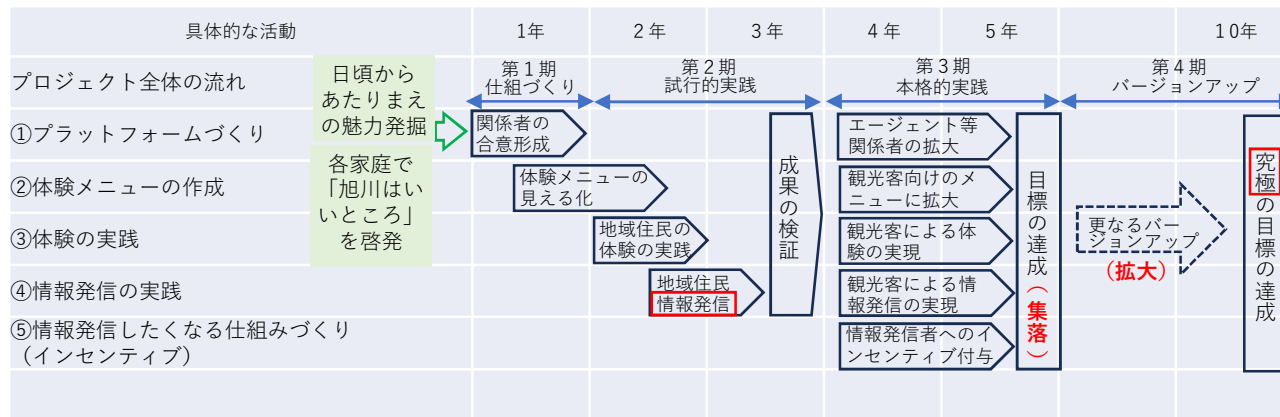
What なにを

概略
全体的に「稼ぐ」と「暮らす」に満遍なく政策整理が記されている。
豊かな水田や木材産業等の特徴的な産業を基礎としたまちづくり（商工振興）や観光誘致が重要である。
食と観光を結びつけた体験型観光や、年間を通じたスポーツ振興なども期待される。

アクションプラン設計のための行政政策分野別整理シート									
産業振興「稼ぐ」地域づくり					生活基盤整備「暮らす」地域づくり				
産業振興		交流拠点整備			環境・ハード整備		教育・医療		
農林水産	商工	観光	文化 コミュニティ	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療
豊かな水 水田地帯	都会とは違う 遊びや場所を 作る	ニセコよりも雪 質が良い ウィンタース ポーツに最適	日常的なつなが り強い (学生、教師 など)	若者が挑戦	大雪山、十勝 岳に囲まれた 自然豊かな土 地	雪が多く市町 では除雪の遅 れがある 旭川市の都市 機能 比較的札幌市 にも近い	消防は旭川消 防 旭川市にユニ ークな学部を 設置	教育の充実	合宿地 バス停 バス路線 観光 高齢者に 優しい町
木材 家具等特産 品の生産地 を有する	空家？店舗利 用	東神楽の旭川 空港中心に、 観光アクセス が良い	女性のつなが り促進団 体ノースコネ クション		都市機能と自 然がバランス よく調和	旭川市の都市 機能 比較的札幌市 にも近い	大川消防に分 かれています 地震が少ない	市立大学に学 部を配置	
日本酒		旭岳、美瑛の 丘層雲峡	心のつながり		景観が豊か				
食が集まる (海産物も含 め)		動物園、ダム 青い池、きの こ温泉がある	女性が生き活 きとこぼし ないまちづく り		物産安	空港、鉄道 高速道路があ る			
農業		温泉がある				1市8町で連携 中核都市圏を 構成			
地産地消を目 指す		航空路線が増 加 外国人観光客 の回復	大雪DMO	オリンピック 選出 プロスポーツ 選手		アクセスが良 い			
		除排雪見学 真夜中ツアー 除雪体験				過疎エリアで 自動運転力の 選手を育成を 実践			

アクションプラン

How どのように



How どのように

- 住民全体が地域の発信する力が向上する（情報発信）
- エリア別地域の情報が世の中に自由に飛び交っている（情報発信）
- 情報を見た人たちが観光にこの地域を選ぶようになる（集客）
- 成功事例を見た事業者が自ら積極的にメニュー開発を行っている（拡大）
- 次から次へと地域の新しい魅力が発掘されている
- 地域の魅力を再確認した人が地元に残る、また戻って来る（究極の姿）

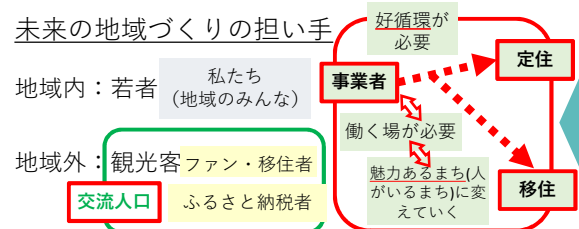
実施体制

Who だれが

- 主体** 旅行会社、ノースコネクションを中心に、DMO、スポーツ団体、大学（学生）、町おこし協力隊（この目的に特化）
+ JA・農家、行政（サブ主体）
- サポート** 民間（飲食、酒蔵、スポーツ施設、木工事業者、交通事業者）、教育機関（小・中・高・大）、メディア（ライナーネットワーク：ケーブルテレビ、道新）、住民（農家）、団体（観光コンベンション協会）、金融（旭川信金）、行政（国・道・市・町：全面的協力）

ビジョン

Whom だれに



Why なぜ

「彼ら」のために何をしたいか？
若者を中心とする地域の人々自らが、地域の魅力を体験し、情報発信することにより、地域に対する誇りや愛着が生まれ、結果として地域に残ったり、戻ってくる人が増えるような社会づくりを目指すもの。

シビックプライド

施策分野：食、観光、脱炭素、安心・安全
アクション：観光×食×αの地域づくり

上川中部D

地域の状況整理

Where どこで



概略
米作など恵まれた農業、旭川空港、旭川駅、旭川十勝道路など交通の要衝、雪が多く地震が少ない気象環境、大学や医療施設が多い都市、食ベマルシェ、愛別きの祭りなど食のイベントが多彩、東川の写真甲子園や旭川冬まつりなど様々なイベントが開催されている

What なにを

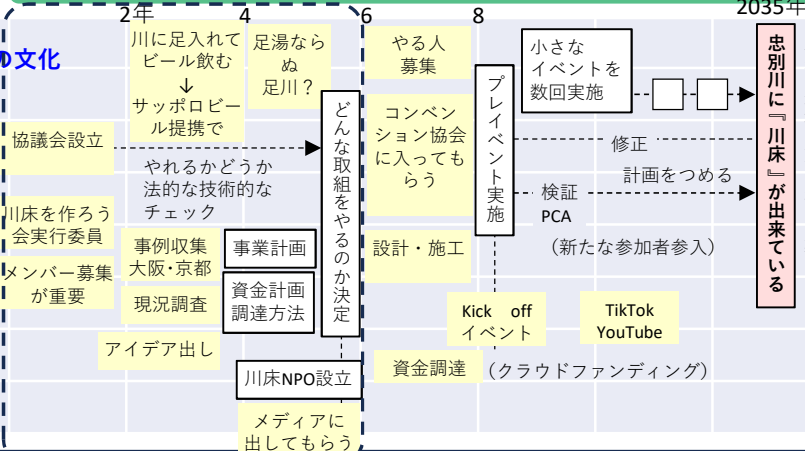
概略
全体的に「稼ぐ」と「暮らす」に満遍なく政策整理が記されている。豊富な農産物や日本酒、家具など、農業、商工業、観光で「稼ぐ」。災害が少なく、高い医療教育環境を持つ、ほどよく「暮らし」やすい。周辺連携が進みやすい。都市機能と自然の調和を図っていくべき。

アクションプラン設計のための行政政策分野別整理シート									
産業振興「稼ぐ」地域づくり					生活基盤整備「暮らす」地域づくり				
産業振興		交流拠点整備			環境・ハード整備		教育・医療		
農林水産	商工	観光	文化コミュニティ	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療
豊富な農産物 食べ物がおいしい 移住は多い 食が豊か 米の需要増	酒蔵がある 移住は多い 空家の民泊	韓国・台湾と流行ある 空港から下(高良野方面)に行ってしまう 体験できる観光が少なくない 知られていない 伸びしろ有!	屯田祭り 多数の人が集まる 食ベマルシェ 冬まつり 愛別きのこまつり デザイン都市イベント 東川・写真甲子園 地域への関心を高めていく	オンライン化でどこでも仕事ができる人が増えた	豊かな自然 雪が多くて寒い 生ゴミの再生利用がまだ少ない ムダ・ロスもゼロにするチャンス 若者が旭川をしょぼい街と書っている 魅力度UPしたい	都市機能と自然の調和 交通・物流中継地 車が必要 車がなければどこでも行ける! 周辺連携が進みやすい 丁度良い町	災害が少ない	大学があり高い教育環境がある 少子化 人減少 豊富な食を活用。子どもも食糧など ほどよく住みやすい	医療施設が多い 人がやさしい 高齢化

How どのように

具体的な活動
忠別川 川床は日本の文化
 川のまちの魅力UP(かき、川床、川めぐりetc.)
 食をもっとPR(勝手井、利き醤油、マルシェetc.)
 wildな自然を活かす(農家で雪遊びetc.)
 ※産業振興の視点での取組(デザイン、木材etc.)
これはインバウンド向け
 ・安全安心・充実した環境での豊かな暮らし
 ・脱炭素de地域づくり

When いつ



How どのように

目指す地域の姿

- デザイン要素のある、「川のまち」としての資源が活用されている
- 食を活用した地域となっている (ラーメン村みたいな・・・)
- 食を楽しめる拠点が来ている (季節ごとに)

地域の未来のために

Who だれが

主体：旭川市、開建、民間参入
木材事業者、農業・生産者
サポート：動物園、飲食店、
ライナーネットワーク (地域情報誌)、
コンベンション協会
市民団体・NPO、YouTuber、文化団体

Whom だれに

自分たち 子供たち 農家 産業の担い手
地域のために 生ゴミの循環。(札幌でやっている)

Why なぜ

「彼ら」のために何をしたいか?
 地域活性化 市民生活産業維持活性化 住んでる人の幸せ 外貨を稼ぐ
 子供たちのために。寂れないように 次の世代に魅力ある町をつなぐ 子供のために 食品ロスをなくす。地域の未来のために

自分たちが当事者。10年後を考える

施策分野：観光、暮らし
アクション：暮らし密着・ごった煮観光プロジェクト

上川中部E

地域の状況整理

Where どこで



概略
旭川空港、JR、高速道路など交通の要所
地震が少ない
公共事業
生活インフラが充実
スキー場、動物園
食べマルシェや3、6まつりなどの地域イベント、活動が盛ん

What なにを

概略
全体的に「稼ぐ」と「暮らす」に満遍なく政策整理が記されている。
農業、酒造、田園風景などの地域自然を活かした産業振興と観光振興。
有名なスポーツ選手が多いが特色が分からない面も。海から遠く、自然災害が少ない。
人口流出はあるものの、関係人口は増えるのでそれを活用すべき、

アクションプラン設計のための行政政策分野別整理シート									
産業振興「稼ぐ」地域づくり					生活基盤整備「暮らす」地域づくり				
産業振興		交流拠点整備			環境・ハード整備		教育・医療		
農林水産	商工	観光	文化・コミュニティ	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療
農業しやすい 農耕放棄地増加	酒造がたくさんある 食べ物おいしい、安い 食はずれなし 企業誘致 リモート勤務 ブランド化	山がキレイ 豊かな自然 田園風景 観光地時期は多い 景色が映える 空港へのアクセス良い 航空の便 アクセス良すぎて人がとどまらない インバウンド増加 雪は観光資源	有名なスポーツ選手多い(金メダル多い?) 自立心が弱い? 何が特色かわからない PR不足? まだまだPR要素がたくさんある	Uターンが多い 担い手不足 人口流出(札幌圏) 地域おこし協力隊 仕事がある 人口流出＝関係人口は増える	雪が多い 寒い 夏暑いのに冬も寒い パウダースノー 話題性 最低気温更新 スキンスノーができる 雪が一面にだけなくグリーンズムが楽しめる 全てが特色(水津以上のもの) 空き家がある	アクセス良い 生活に必要な 道内でのアクセスが悪い 大規模としが近くにある ドライブ 雪が一面にだけなくグリーンズムが楽しめる 全てが特色(水津以上のもの) 空き家がある	自然災害の少なさ 海から近い 津波の心配はない	悪いニュースが多い	高齢化 高齢化＝純粋世代の生き方、ロールモデル

アクションプラン

How どのように

具体的な活動	現状 2025年	1年目 2026年	3年後 2028年	5年後 2030年	10年後 2035年
①既存観光イベントに住民参加、企画段階から住民参加できるような仕組みづくり	イベント参加				
②住民参加による新規観光イベント企画会議(仮)開催、イベント開催		企画会議 イベント開催	観光イベントの整理・見直し		
③行政や観光協会が主体となる広域連携の仕組みづくり		チームづくり・事業設計 広域連携			
④広域連携による地域ブランディング、観光PR		地域ブランディング検討・施行	観光PR		
⑤					

When いつ

How どのように

目指す地域の姿

- ・地元肯定感の増加、幸福度
- ・観光客が増える、リピーターが増える、移住者が増える
- ・自信↑、人↑＝活力↑

グローバル視点で!

Who だれが

主体：推進会議（住民、行政、観光協会）
サポート：農業生産者、食品加工・製造業者、除雪事業者（建設業者）、交通事業者、スポーツ選手、文化団体

ビジョン

Whom だれに

未来の地域づくりの担い手
地域内：生徒（学生）、ファミリー層、移住者、老若男女
地域外：国内外観光客

Why なぜ

「彼ら」のために何をしたいか？
地域の暮らしに密着した観光メニュー・イベントをつくる。

取りこぼしのない暮らし
まちのみ●の継続(発展)
自分達が楽しく・前向きに
自慢できるまち

上川中部F

地域の状況整理

What なにを



概略
大雪山、近隣8市町村での連携（上川、美瑛、旭川市など）
農業施設の管理（1市2町に水を配給）、消防やごみの連携（東川、美瑛、東神楽）
林業が盛んな当麻町周辺、地域おこし協力隊などの活躍

概略
美味しい水と米を用いた酒どころ、
層雲峡などたくさんの温泉地といっ
た地域自然を活かした「稼ぐ」地域
づくり。
自然豊かな大雪山や雪を活用した再
生エネルギーを用いた「暮らす」地
域づくり。

アクションプラン設計のための行政政策分野別整理シート									
産業振興「稼ぐ」地域づくり					生活基盤整備「暮らす」地域づくり				
産業振興		交流拠点整備			環境・ハード整備		教育・医療		
農林水産	商工	観光	文化 コミュニティ	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療
食の生産 おいしい水 とお米	酒どころ 空家などがあるため何かをできる場所がある	層雲峡温泉などのたくさんの温泉地 観光で訪れる人が多い	人口が減少していない地域もある	地域おこし協力隊制度	自然豊かな(大雪山) 冷涼な気候 雪(めずらしい景色) 思っていたよりは雪がふらない 再生 純エネルギー(水力・地熱)	旭川空港 R バスの維持が重要		旭川に大学がある	

When いつ

How どのように

アクションプラン

具体的な活動	1年目 (2025年)	3年目	5年目	7年目	9年目	10年目 (2034年)	25年目 (2050年)	目指す地域の姿
モデル地区から地域全域での拡大	モデル地区の選定		地域全域での取組開始					- 住民の自転車の利用による健康寿命の延伸 - 自転車旅行の魅力の向上による観光客の増加 - 自転車で新たな魅力を発見され、それが発信される - 地域通貨が利用されていくことで、地域経済が活性化 - 車の上に自転車を置いて移動、途中から自転車移動 - 低炭素社会の実現
道づくり	継続的な走りやすい道づくり							
環境づくり (駐輪場・荷物預かり・自転車の貸出など)	河川周りなどサイクリング特区の整備							
SNSなどでの自転車生活のリアルな情報発信	あらゆる自転車の用意		サイクリングロード付近の賑わいづくり					
アプリケーションの導入（通貨・距離・情報）	協議会の発足		タレント会社との関係構築		世界への発信開始			
自転車と観光資源との連携	アプリ開発 商店関係構築 マップづくり		環境配慮へのポイント付与開始		アプリの運用			
利用者	地域資源発掘		モニターツアー実施 (国内観光客)		モニターツアー実施 (外国人観光客)		徒歩・自転車移動があたりまえ！	
学生の利用促進								

Whom だれに

Why なぜ

实施体制

主体：市町村、観光協会
協力：アプリ開発・運営会社、商業店舗、
学生サークル、インフルエンサー、
世界に情報発信できる人、
日常的に自転車を利用する人(学生も)、
観光資源の管理者
福祉関係の団体、国

ビジョン

未来の地域で暮らす方々

地域内:学生（中学生）、多様な人（移動しやすい空間になって、住みたいと思う）

地域外:外国人も含めた観光客

「彼ら」のために何をしたいか？

- ・みんなが健康で元気に暮らすために
- ・どこにでも移動しやすくするために
- ・住みたいところに住み続けるために
- ・低炭素社会を実現する
- ・観光客の移動をスムーズにするために

施策分野：観光、暮らし、交通・物流、安心・安全
アクション：川の駅プロジェクト～自然のワイズユース～

上川北部 A

地域の状況整理

Where どこで



概略
国道40号などJR宗谷線が集まる交通・物流の拠点。農業が基幹産業。天塩川のフライフィッシング・カヌーなど体験型観光のポテンシャルが高い。
日本そば（幌加内）、うどん（下川）、かぼちゃ（美深）、もち米（名寄）などの食産業。スキージャンプ、クロスカン トリー、カーリングなどウィンタースポーツが盛ん。

What なにを

概略
全体的に「稼ぐ」と「暮らす」に満遍なく政策整理が記されている。新しい農作物の開発、工場誘致、スポーツ観光などで農業・商業・観光を活性化させていく。地域の特色である林業を中心にゼロカーボンを先導していく。2次交通が弱く車社会の名寄にしか医療施設がない地域特性の解決。

アクションプラン設計のための行政政策分野別整理シート									
産業振興 稼ぐ! 地域づくり					生活基盤整備 暮らす 地域づくり				
産業振興		交通拠点整備			環境・ハード整備		教育・医療		
農林水産	商工	観光	文化コミュニティ	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療
農作物が盛ん ソバ畑 新しい農作物の開発・販路づくり （農作物） 加工場が少ない	大企業が少ない 広大な土地がある 自動車テストコース ルート約100kmの観光の拠点として動いている（死なずマツリ） 農北の〇〇が多い（工場誘致）	雪・氷とWinter sports 観光開発されていない オバツリズムがない ニセコにあまた人を知られざる観光地（インバウンドの可能性がある） コナツツアー ↓ 地域の語りべ	どこに行っても1〜2時間で行きとどこでも行ける 冷涼 ↓ 二地域居住の聖地 西條やイオンが若者の集まる場所 ボードゲームで学生が地域と交流している 「なにに在るベス」	後援者不足 後援者が少ない 就職先を ラビダスみたいな大企業を誘致（土地はある）	森林 木 ゼロカーボン 日本のCO2を守っている 原始林が見られる地域（北大研究林） 計量樹 白樺 大都会の人にこそ必要な、（大自給）	主要道路が少ない 国道40号のみ 2次交通が弱い バス・タクシー 高速道路が土曜まで使えない 車無しと移動 車社会 1人1台 ↓ 車を活用	地震が少ない 水害のリスクはある	学校が少ない 学校が多いので残せれば労働力! 全国の不登校生を受入施設をつくる	病院不足（名寄にない）

アクションプラン

How どのように

When いつ

How どのように

具体的な活動	まず	10年後	目指す地域の姿
①河川へのアクセスポイント・駐車場整備「川の駅」	プロジェクトチームの立ち上げ	現ガイドと共に箇所選定／影響調査	【観光・6次産業】 ・高単価の観光提供と地域経済波及 ・地元で加工品生産 ・街中やホテルで買える名産品 【環境】 ・川の資源維持、ワイズユースルール ・観光消費が環境保護につながる経済 【教育・就業】 ・アウトドアガイドが憧れの職業として若者の定住に寄与
②流域ツアーの展開・観光消費		試験運用（社会実験）	
③河川資源維持・活用のルールづくり「天塩川 川釣り特区」		外部にアピールする特産品 外部からの応援 源流プロジェクト（ふる川再生） 魚の資源の増養殖 魚協などと調整	
④ツアーガイド育成（学校教育・地元企業）		地元の意識醸成魅力を自覚 子供の釣り体験授業・地域イベント ガイド学科／職業校の設置	
⑤高速交通網整備（高速道路・ヘリポート）		ガイド育成	

実施体制

Who だれが

天塩川ネイチャーセンター（財/社）
・川の駅施設管理（指定管理者）
・観光ガイド、ネイチャーガイド
・河川パトロール

北海道開発局・北海道庁・市町村
・道路、河川、ハード整備
・川釣り特区、法改正

サポート

大学・アウトドアブランドメーカー・ホテル・温泉・バイオマス熱・警察・日本政策金融公庫・漁協・商工会・JA

ビジョン

Whom だれに

- ・未来の子供たちのため（日本人のため）（ひいては、未来の子供たちを育てる「社会環境」「自然環境」を確保するため）
- ・子どもを産み育てたいと思える地域社会づくりのため。
- ・美しい日本・日本らしい北海道の魅力を残すため。

Why なぜ

「彼ら」のために何をしたいか？

- ・人口減少・高齢化のなかで「稼ぐ&暮らす」持続可能な地域づくりをしたい。
- ・一過性（ブーム）で終わらせない。
- ・道北の中核都市「名寄」として、高次医療・高等教育を維持したい。
- ・帰って来られる地域、国内外から人が集まる地域にしたい。

施策分野：観光、暮らし
アクション：新しい教育の形

上川北部B

地域の状況整理

Where どこで



概略
豪雪厳寒地帯。寒くて雪質が良く、ウィンタースポーツに適している。天塩川を中心に天然素材が豊富な地域。南北に長い集落が点在し、二次交通に課題がある。
まちづくり、移住に関する地域活動が盛ん。
中心都市の名寄市には大学、自衛隊などが集積。

What なにを

概略
全体的に「稼ぐ」と「暮らす」に満遍なく政策整理が記されている。ウィンタースポーツなどで客単価を上げて地域の「稼ぎ」を増やす。Nスポーツコミッションを中心とした関係性の構築。
地産地消を進め、CO2削減に貢献。

アクションプラン設計のための行政政策分野別整理シート									
産業振興「稼ぐ」地域づくり					生活基盤整備「暮らす」地域づくり				
産業振興	文化・コミュニティ	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
農林水産	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
第一産業	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
農業が国策に左右されがち	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
消費人口少ない・働く場所がない・産業が国策に左右される・特産品不足⇒外向けコンテンツにシフトチェンジ？	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
起業しやすい	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
時間・空間に余裕がある	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
消費人口少ない・働く場所がない・産業が国策に左右される・特産品不足⇒外向けコンテンツにシフトチェンジ？	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
特産品が不足	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
シルクースノー	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
ニセコ〜富良野〜？	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
ニセコに富良野	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
インバウンド	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
移動が不便⇒道中のコンテンツを楽しむ	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
道中のコンテンツを楽しむ	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
道中ツアーのバックパッカー化（続かない）	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
見える関係性のつよみ	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
ラビダス？	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
国産の世代60over	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
海外人材	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
人情味	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
リスケリング	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
高齢者働き手	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
若者が働く場所がない	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
雪日本一世界一かも	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
ジャンプ台	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
アルペン・ジャンプ・ロカン種目選手がいない	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
自然豊かな	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
空気がうまい	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
インフラ未発達地域⇒離れた名所へ	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
地産地消	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
カーボン・オフセット	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
新技術発達	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
町外からのバックカントリーが増加	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
CO2削減	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
新しい教育の形	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
福祉事業所	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		
病院がない⇒健康的	観光	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療		

How どのように

ふるさと納税の活用
(企業版、SDGs)

When いつ

How どのように

具体的な活動		⑤と統合	現在	1年	2年	3年	4年	目指す地域の姿
①	ビジネスとの接点を作る(産業、スポーツ)	実施中	拡大					
②	プロジェクト・ベースド・ラーニングを軸とした教育	誰が何をしてる？ 年代への調査・プラン マッチング	事業計画を創る 企業PR	稼ぐを学ぶ				
③	学生による起業サークルを創る			経験してもらう		商品開発		
④	アナログを大切にする ⇒商店街などが教室として活用			出資者をさがす				
⑤	誰でも先生になれる (年代に応じて)			行政がかかわる	チームマツリ	コンソーシアムづくり		
⑥	予算を獲得する	地域への思い	ボランティア					
⑦	その他(料理教育、オンライン)							

- ・高校進学で出て行かない、定住を促進する
- ・子どもの個性(多様性)を育てる
- ・地元を好きになってもらう
- ・創造できる、学べる地域として、消費・作る喜びを共有する

実施体制

Who だれが

メイン

農協 商工会 商店街 教育委員会 OCCO SIYA (地域団体) ファシリテーター

協力

NPO 観光協会 信金 地域企業 高齢者 町内会 コーディネーター メディア SNSの発信

ビジョン

Whom だれに



地域に住まう人々 企業

Why なぜ

「彼ら」のために何をしたいか？

地域への思い⇒すりこむ!! 助けてもらった育ててもらった愛情 暮らしの選択肢を広げる 居場所づくり 地域を大切にする 五感の醸成 シャケ戻ってくる

施策分野：食、観光、脱炭素、暮らし、交通・物流

アクション：自然エネルギー（再生可能エネルギー）を活用しCO2を出さないラストワンマイル観光・暮らしプロジェクト

上川北部C

地域の状況整理

Where どこで



概略
名寄市：生産量日本一のもち米。
煮込みジンギスカン。
下川町：フルーツトマト、手延
麺、スキージャンプ、サンルダ
ム。
極寒地域で、雪質日本一のピア
シンスキー場。
1市3町による着地型観光推進協
議会など地域連携も多い。青年
団体の活発な活動が見られる。

What なにを

概略
全体的に「稼ぐ」と「暮らす」に満
遍なく政策整理が記されている。
豊富な食資源による農林水産、養殖
ビジネスなど商工業、寒さを活かし
た観光振興などで「稼ぐ」。オー
バーツーリズムにならない「秘境」とし
てのPRもあり。
地震が少なく安心した「暮らし」を
提供できる。森林資源を活用したCO2
削減への貢献。

アクションプラン設計のための行政政策分野別整理シート									
産業振興「稼ぐ」地域づくり					生活基盤整備「暮らす」地域づくり				
産業振興		交流拠点整備			環境・ハード整備		教育・医療		
農林水産	商工	観光	文化 コミュニティ	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療
農畜産物が おいしい	サンルダムの 人的資源 活用が特徴	豊かな自然 Rレイ (車庫)	移住者が多 くいる	若者も起業 しやすい	オーバーツー リズムになら ない 秘境みらいな	旭川⇄成田 間の格安航 空 Amazon 次の日に届 くように ネットが 速い	地震が少な い 住みやすい	下川商業バ スケットが 強い	終活ビジネ スのチャン ス 増活サミッ トの開催
豊富な食資 源	養殖ビジネ スの開発	映える風景 寒い国から 観光客増	若者を中心 とした連携 が強化され てきた	高齢者だか らできる作 業	再生可能エ ネルギー	天然の冷凍 庫ができる			
	自動車会社 企業誘致	より外国人 や観光客が 東北に 寒さ体験		農場が多い 新規就農		ドローン			
	自動車会社 に協力 (技術)	寒さを活かし たイベントに よる交流人口 増加人口	ラストワン マイルが必要	自動運転で 稼働 住民の 送迎も	きれいな 空を 眺めながら 移動	格安航空 をつかって			
次交通 が不十分									

How どのように

名寄・土別・下川・中川
を対象にして連携

When いつ

目標達成

How どのように

目指す地域の姿

アクションプラン

具体的な活動	事業全体設計	2025 計画策定 (地域選定)	2026	2027	2028	2029	2030	目指す地域の姿
①再生可能エネルギーを活用したラストワン マイル・モビリティの実用化 ・地域立地の自動車メーカー(テストコース)の ICT技術等との連携(協定締結)、支援体制構築 ・ラストワンマイル・モビリティ(自動運転EVコ ミュニティバス等)の実証試験・実用化(自動除雪を含む)	組織 体制・役 割・ス ケジ ュー ルの 決定	事例視察 (茨城県境町、 土上幌町等) ↓ 補助事業申請 (経産省:次世代型太陽 電池実証事業(王子マ テリア跡地活用)、ク リーンエネルギー自動 車導入促進補助金等)	連携協定締結 自動車メーカー、システ ム開発会社・地域の交通 事業者との連携協定締結	選定地域における運用基 本計画策定(ルート選定、 運行計画、住民説明会等) ↓ 付帯して自動運転除雪機 による除雪計画策定	一部運用 (実証試験) ↓ (自動除雪含む) ↓ 定置用蓄電池・EV ステーションの整備	本格運用 ↓ 他地域への適用	(SDGS目標年)	・高齢者などの交通弱者や移住・就農者 が安心してくらせる地域(ラストワン マイルモビリティの確保)→生活基盤 が整った快適に暮らせるまちづくり によるコミュニティの維持、移住・新規 就農者が安心して生活できるビジョン をもてる住みやすいまちづくりの実施 ・意識高い系観光客(持続可能な未来へ 向けた環境問題:クリーンエネルギー、 フードロス、SDGS等への意識や関心が の高い層)を地域に呼び込み、他の観 光地にはない魅力の発信により、交 流・関係人口を増加し地域振興を図る
②再生可能エネルギーを活用した意識高い系 観光客誘致 ・再生可能エネルギーを活用した地産地消のメ ニューやフードロスのないメニューの開発 ・再生可能エネルギーによるまちづくりを説明 できる人材(アウトドアガイド)育成		2025 計画策定 ・体制検討 ・役割分担 事業計画 人材募集	2026 ニーズ調査 連携協定 (産学官民)	2027 メニュー・レ シビ開発 ・試食会 ・道の駅販売	2028 宿泊施設提供 (ホテル・旅 館・民泊等) 情報発信	2030 新レシビ開発 (利用者アンケ ー実施→改良 ・繰り返し)	実践 ガイド活動	
		育成のためのスキルアップ (公的資格取得支援)(地域での自主活動・環境問題意識醸成)						

Who だれが

実施体制

- | | | | |
|--|--|--|--|
| ①主体
・名寄市役所
・土別市役所
・中川町役場
・下川町役場
・バス事業者
・ハイヤー | ②サポート
・北海道開発局、経済
産業省、北海道運輸局、
新エネルギー・産業技
術総合開発機構
・自動車メーカー等
・自動運転EV事業者(・
金融機関(北星信用金庫
等)) | ②主体
・名寄市立大学
(コミュニティケア、
栄養学科)
・生産者
・農協婦人部
・旅館・民泊業者
・商品開発事業者
・アウトドアガイド | ②サポート
・名寄市役所
・土別市役所
・観光協会
・地域のインフル
エンサー、ユー
チューバー
・マスメディア
(新聞社、地元FM
局) |
|--|--|--|--|

ビジョン

Whom だれに

- | | | | | |
|---|---|---|---|--|
| ①高齢者
等交通弱者
(地域内)
①運転に不
慣れなイン
バウンド客
①初心者
マークの人
(地域内) | ①意識高い系
観光客
(地域外)
①交通事業者
(人手不足)
①インバウ
ンド客の事
故を減らす | ①従来型の
観光客
(地域外)
①郊外部の
居住者
(地域内)
①習い事
タクシー
(地域内) | ②意識高い系
観光客
(地域外)
②移住者
(地域外)
②児童生徒
(地域内) | ②旅館業
(地域内)
②若者
(地域内)
②高齢者
(地域内) |
|---|---|---|---|--|

Why なぜ

- ①高齢者などの交通弱者や移住・就農者が
安心してくらせる地域づくりしたい→コ
ミュニティの維持、快適に暮らせるまちづ
くりビジョンをもてる地域づくり
②他の観光地にはない魅力の発信により、交
流・関係人口を増加したい
③ターゲットを環境問題への意識が高い系と
設定→高付加価値なサービスの提供に見合う
適正な対価の収受→関連産業の収益増加

施策分野：食、観光、暮らし

アクション：まちのマニアックな良さを知ってもらって住んでもらおうプロジェクト

上川北部D

地域の状況整理

Where どこで



概略
交通：国道40号、東西に国鉄廃線、高速道路出口すぐ。
特徴：天塩川、雪質日本一、夏の寒暖差、地震が少ない、ウィンタースポーツ
地理：「最北の」ワイナリー、セブンイレブン、公立大学
活動：青年会議所、観光協会
食：サフォーク、もち米、そば・うどん、スイーツコーン

What なにを

概略
全体的に「稼ぐ」と「暮らす」に満遍なく政策整理が記されている。
水が美味しい、クリーン農業を背景とした農業振興、ITの普及や車のテストコースが多い商工業、「寒さ」にフォーカスした観光振興などで外貨を「稼ぐ」。
その反面、冬の厳しさを補う「暮らす」の充実が必要。

アクションプラン設計のための行政政策分野別整理シート									
産業振興「稼ぐ」地域づくり					生活基盤整備「暮らす」地域づくり				
産業振興		交流拠点整備			環境・ハード整備		教育・医療		
農林水産	商工	観光	文化コミュニティ	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療
水がおいしい コメが多い 害虫少なく クリーン農業 サフォーク(羊)が有名 もち米の生産が盛ん 農地あまりからの新規就農 温暖化の中、作物おいしくつくれる	単のテストコースが多い 日本「最北」の経済拠点 ITの普及 廃校舎を利用して新たなビジネス 商店減少 飲食店に改装 商店減少 リーズナブルな家賃で ポップアップショップや民宅にカフェなど	寒さゆえ樹氷がきれい オーロラ見えまくる きれいな星空 自然が豊か キャンパーが多い 寒い 白く凍れた美しい世界 寒い ここでしかとれないおもしろな雪がとれる	冬のオリンピック選手が多い 多様性 魅力が伝わっていない 関係の余白がある 雪が多い 雪を利用したイベントの開発 寒い	移住が多い 外国人の労働力 人財不足 副業がしやすい 人財不足 高齢者を人財として 人財不足	凍る大河天塩川 雪が多い 雪がストックして夏の冷房に 冬が長い 花粉が少ない パドウォンチング(近畿黄)	冬のきれいな道路整備 雪多いけど除雪上手 交通量が少ない 道が広い 道路が走りやすい 雪道から通いやすい 不自由な車を走らせると大変 車でも走ると大変 車でも走ると大変 車でも走ると大変 車でも走ると大変	地震・台風が少ない 甲子園近い将来希望		

アクションプラン

How どのように

他にないことをやらないと人は来ない！
具体的な活動 生き残れない！

まちのマニアックな良さを体験してもらう活動
・キャンプ&就業体験 真っ暗闇体験
・雪・冬体験、田舎だからこその体験
食を楽しむイベント・食材をつなげる取組
マニアックな良さの発信・アピール
移住・定住のバックアップ

生き残るぞ！！

ステップ①

立ち上げ
各ステップは1～2年で実現し、全体で5年で実現を目指す
声かけ
仲間あつめ
役場に声をかける
↓
商工会に声をかける
地域の活動団体(おこし屋)
協議会を作る
根まわし機運醸成

When いつ

ステップ②

準備・試行
宣言
仲間を広げる
名寄市立大への声かけ
大学構内でイベントをうつ
青年会議所とのネットワーク
資金集める
予算獲得

ステップ③

実行・実現
企画書を作る
参加者を集める
ターゲットは首都圏！
就職サイトでアピール
知り合いの知り合い
運営を手伝う

展開・発展
幌加内から
いろんな町へ

How どのように

目指す地域の姿

- ・【文化】新しい文化の創造(若い人(移住者)と居住者の交流)
- ・【経済】地域における資金循環(移住・定住者増による地域産業の活性化)
- ・【世界】世界の人々が訪れる地域(人に自然に優しい、安心してアウトドア活動が楽しめる＝集客力)

仲間に巻き込む！

Who だれが

チームメンバー	地域のマニアックな良さを知る人々
サポート	地域に根ざした企業・団体 地域の特徴的な機関
	・旅行事業者 ・農家 ・テレビ局 ・地域FM ・SNS ・地域住民 ・青年会議所 ・JA ・観光協会 ・名寄市立大学 ・自衛隊 ・北海道経済産業局 ・北海道市町村

ビジョン

Whom だれに

今住んでいる人 × 新しい世代の人(移住者) × 地域を訪れる人(観光客)
子どもたち

Why なぜ

「彼ら」のために何をしたいか？

- 次の世代につなげていきたい
- 地域に住んでもらいたい
- 子どもたちに、ふるさとを残したい誇りに思っている！

実施体制

施策分野：観光、暮らし、交通・物流
アクション：道北“はとバス”ツアー

上川北部E

地域の状況整理

Where どこで



概略
道北の中心部
自然：天塩川、名寄川。台風や地震などの災害が少ない。夏の大きな寒暖差
交通：日本最北の高速IC（士別剣淵）、宗谷本線、国道40号
地域産業：飲料、化粧品、もち米、放牧酪農、木工、ワイナリー、クラフトビール、サフォーク、北大研究村

What なにを

概略
全体的に「稼ぐ」と「暮らす」に満遍なく政策整理が記されている。天塩川など手つかずの自然や星のきれいさ、オーロラなど、他の地域にはないコンテンツで観光客を呼び込む。担い手不足をDXのチャンスと捉え、やりたい人は就業できる環境を構築。災害が少なく安心して暮らせることをPRし、若者の移住を呼び込む。

アクションプラン設計のための行政政策分野別整理シート									
産業振興「稼ぐ」地域づくり					生活基盤整備「暮らす」地域づくり				
産業振興		交流拠点整備			環境・ハード整備		教育・医療		
農林水産	商工	観光	文化 コミュニティ	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療
牛肉生産量が多い 農作物が豊富 もち米 面積日本一 サフォークが有名な土着 気候変動と農業的にはチャンス	車のテストコースあり 最北のワイナリー 森臥 クラフトビル 木工 樹液が商品化されている 雪の運転大変 ゲストコースで教育	ウィンタースポーツが盛ん 天塩川手つかずの自然 カヌーで下れる クワッドボート星がキレイ なよろ天文台 近年、オーロラが観測された インバウンド（外国人観光客）の増加	実入多い NPO法人森の生活（下川町） （一社）ちいさなじいのものがたり（下川町） パワースタッフ協会 何をやっても目立ちやすい 目立ちたがり屋にはいい	独立したい人の支援多い 担い手不足 やりたい人は就業できる 人手不足 DXのチャンス	森林収収（多面的機能） 第1回SDGsアワード大賞 下川町 北大研究村	交通量が少ない どこに行っても空いている 広大な土地 0円物件に任せる	災害が少なく安心して住める 除雪がしっかりしている ロシアの脅威 自衛隊で安心	名寄市立大学所在地 空き家が多い 若者移住に0円物件はいかせる	総合病院（名寄）

How どのように

When いつ

How どのように

具体的な活動	1年目	2年目	3年目	4年目以降	10年	20年後	目指す地域の姿
道北各地の魅力の洗い出し 100プランの設計 ← 目標 スタンプラリー等、参加者を増やすための規格の設計（参加者の獲得） モニターツアーの実施 各プランの設計 プランの検証	チームづくり 関係者協議	1プラン（モニターツアー）設計	子どもをターゲットにスタート	ターゲットを広げ、さらなるプラン設計	主催となる団体の設立（組合等） 団体が収入を得るしくみの検討 ターゲットの拡大・参加者の獲得 検証（適宜） 事業見直し（10年目）	100プラン達成 最初のプランに参加した子どもたちがガイドに 組合が自立して事業可	- 地域の魅力をPRする地元人材の育成により、より地域の魅力の発信へ - たくさんのプランに参加することで、より深くその地域を「知る・伝える・案内する」人の増加

アクションプラン

Who だれが

主催者：各市町村、教育委員会、観光協会、バス会社、バスガイド、地域にくわしい住民、地域おこし協力隊
サポート：商工会、各プラン内容関係者（農業従事者、スポーツ団体、アウトドア愛好家など）、宿泊事業者、国、道、姉妹都市、地方紙、地元雑誌、航空会社、雑誌などのメディア、SNS発信者

実施体制

Whom だれに

地域の子供母子子どもたちのために
そこに住む人たちのため
地元外の人たち

Why なぜ

「彼ら」のために何をしたいか？

人口減少の緩和 → 関係人口を増やす → 地域力の向上
知ってもらい移住、定住 → 地元の魅力を未来につなぐ → 未来に地元の事を知ってもらったていく → 新しい文化の創生 → 地元愛を育てる

ビジョン

施策分野：観光、交通・物流

アクション：札幌方面からの観光客を名寄周辺で周遊プロジェクト（都市間高速バス問題）

上川北部F

地域の状況整理

Where どこで



【概略】

- ・国道40号沿い、JR、高速バス、交通の便が良い。降雪量が多くウィンタースポーツが盛ん。
- ・メイン産業は酪農と林業。
- ・移住者を中心に木工品に力を入れている

中川、音威子府、美深、名寄、和寒、旭川

What なにを

【概略】

- ・地域の特色であるもち米や麦、林業を活かした農林業振興は現状まだ知られていない、**伸びしろがある**。
- ・中川町では地域おこし協力隊の移住が増えており、**新しい発想やコミュニティ形成も期待**。
- ・一方、音威子府高校など構築した**関係人口を維持し、いつか戻ってきてもらう工夫も必要**。

アクションプラン設計のための行政政策分野別整理シート									
産業振興「稼ぐ」地域づくり					生活基盤整備「暮らす」地域づくり				
産業振興			交通拠点整備		環境・ハード整備			教育・医療	
農林水産	商工	観光	文化コミュニティ	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療
農産物が豊か → 新規に事業が参入しやすい もち米の生産全国1	店舗が少ない → 新規に事業が参入しやすい 飲食店の跡継ぎがない → 後継に困る 良質な木材がとれる スマート農業の導入	寒い地域ならではの活用 イベント、特産品 観光資源を活用した観光客の関心人口の増加につなげる 雄略峠以北の認知度の低い状況 → インバウンドのチャンス！ 音威子府～中川まで車で30分、バスも通っていない → バイクなどのツーリング需要があるのでは？	地域おこし協力隊の移住者が増えている（中川町12名）	人口流出 → 人を受け入れる余力がある。 空き家が多い。土地も空いている。好きな広さ、場所で購入することができる。	自然が豊か 国内最大級の魚が釣れる（天塩川、イトウ） 標高が高い地点でバードウォッチング（中心部でも！）	交通の利便性が高い		音威子府高校の卒業後転出して15年間育んだ関係人口、その後転出して戻ってきてもらう。なまは恵み出で遊ばせてほしい。	介護施設の老朽化の建替え。→ 社会福祉。子育て支援を充実し福祉のまちづくり。
もち米が知られていない → 伸びしろがある ための土台ができていく。									
					強み				
					チャンス				
					SOSO転換				

How どのように

When いつ

How どのように

アクションプラン

具体的な活動	現状 2025年	1年目 2026年	2年後 2027年	3年後 2028年	4年後 2029年	5年後 2030年	10年後 2035年	目指す地域の姿
①コンテンツの発掘と魅力的な観光ルートの検討	現状把握（資源・現ツアー） 関係構築、プロジェクトチーム組成	ツアー検討（組み合わせ）	事業企画・予算化				目標達成（回避道以外）	
②周辺市町村で連携し、まちごとの季節の魅力、資源を教え合う機会づくり		プレツアー	本運用＋補助申請					
③雪で道路が止まるなどがあった場合も楽しめる回避道の確保（さまざまなルート・コンテンツを把握）		勉強会、団体の連携・コーディネート						
④道内・道外への積極的な周遊観光のPR		高規格道路の延伸検討（回避道も）・整備 ※10年後以降の長期間で検討継続						
⑤周辺市町村で連携した宿泊情報の共有（空室情報）		各媒体での発信（TV、新聞、SNS等）						
⑥空き家を活用したゲストハウス等の用意		情報共有（即時性・更新） 関係者に共有						
		プライベート空間等を整備（インバウンド向け）	順次、整備・展開					- 周遊が定着することによりニーズが高まり、バスの便数の増加につなげる - 道北の市町村全体が連携して一体となった観光ができると全国的にもないものになる 空き家などの活用できる資源がわかることで、地域おこしなどの活躍につながる 「道北」ブランドとして市町村それぞれが「道北」の仲間意識を持つ、他のまちの魅力を話せるようになる

- ・周遊が定着することによりニーズが高まり、**バスの便数の増加**につなげる
- ・道北の**市町村全体が連携**して一体となった観光ができると**全国的にもないものになる**
- ・**空き家などの活用**できる資源がわかることで、地域おこしなどの活躍につながる
- ・「道北」**ブランド**として市町村それぞれが「道北」の**仲間意識**を持つ、他のまちの魅力を話せるようになる

Who だれが

主体：観光事業者、地域おこし協力隊、各自治体の観光まちづくり協会等（商工会含む）
サポート：農林事業者、飲食（道の駅等）、宿泊（ゲストハウス）、交通、大学・学校（芸術・看護）、新聞、インフルエンサー、移住者、周辺自治体や地銀・信金等

ビジョン

Whom だれに

未来の地域づくりの担い手
 地域内:体験型プランを通じて就業希望（農業・林業等）の住民の方、官民まちづくり活動グループ
 地域外:札幌圏域の市民（多様な世代）、インフラ巡りを通じた全国の移住希望者、中～高齢者、マニア（鉄道・撮り鉄等）、関係人口、道外観光客・インバウンド

Why なぜ

「彼ら」のために何をしたいか？

- ・一次産業や各種産業の担い手になる人材の発掘・育成を進めて地方創生（ここで働きたい・住みたい人）の振興
- ・初めて来訪する方への魅力発信・暮らしぶりやマナーの向上

実施体制

アクション：ひらがな「ふらの」の世界ブランド化

地域の状況整理

概略
北海道の中心、山林主体で海がない（盆地）。
上富良野～占冠（1市3町1村）の経済圏。
観光資源が豊富～ラベンダーなど多種の農産物。

概略
全体的に「稼ぐ」と「暮らす」に満遍なく政策整理が記されている。高い農業生産と加工・外食による高付加価値化。圧倒的な「ふらの」ブランド、スキー、ラフティング、インバウンドによる観光需要の増加。それらの観光需要を定住に誘導する必要がある。大学がなか若者の都心部への流出が見られる。

アクションプラン設計のための行政政策分野別整理シート									
産業振興「稼ぐ」地域づくり				生活基盤整備「暮らす」地域づくり					
産業振興		交流拠点整備		環境・ハード整備		教育・医療			
農林水産	商工	観光	文化 コミュニティ	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療
高い農業生産と加工・外食による高付加価値化	企業の地域創生の推進が高まっている ふるのブランド	圧倒的なブランド力 （農業・観光） ふるのブランド	演劇のまち 自然塾	移住者多い 人材の多様性	ゴミの分別 オバパ リズム 雪・物取崩 への対応 海安	旭川食品 旭川食品グループ 旭川市YD店 （2024） アクセス 幸福度が高い 国・北海道 による地域振興の取り組み 物産高 大々買い物物は旭川より安い 物産禁止 物流機器 物産コスト	災害が少ない 緑の防災 への対策 旭川十勝道路の整備 自然災害 大雪・観光 十勝直下 も 冬の暮らしに 雪・除雪 雪なまを雪害からの 観光イベント アクティビティに の対策 冬の暮らしを楽しむ 雪国になる（メタボ対策）	人口減少 人口流出 大学がない への対策 人材の流出 若者の都心部への流出 都市・戦後で外に出る人が少ない 人口減少過疎化 居住・リア層の対人材流出の対策 外に出る人プロモーション 関係人口	
	農産物加工による高付加価値化 ふるのワイン オムカレー 観光系企業誘致の可能性	美しい風景 フォトスポット スキー フライング 世界最長のバゲージ 200万人規模の流入人口（観光客） イベントなどによる観光客の基盤 外国人観光客の増加 厳しい自然環境 観光資源							
		観光で来てもらいたい 定住・誘導	強みの のばす	とまわ → つらい → 楽しい → 定住・誘導	国産食料 チャイタウ	ふるの			住んでもらえるように 空き家（調査）

1~2年ぐらい 10年

具体的な活動

強みである農産物や農産品、ワイン、チーズなど、既にある強みを生かして輸出を増やすことにより、富良野の名前、知名度を上げる

バイヤーとの交流、プレゼンの場を作るなど
「ふらの」を知る機会づくり

様々な商品や場所において「ふらの」のロゴを
もっと利用してもらう

日本のアニメのコンテンツ力を生かし、「ふらの」のキャラクターである「へそ丸」や「トマピー」などのキャラクターを活かして世界に発信

機運
づくり

組
づ

他日
との

他
で

→ 土地

100

皆で
つくり

(b)

皆

1

11

100

皆で
つくり上げ感

How どのように

目指す地域の姿

- ・長期滞在できるふらの
- ・ベース基地ふらの
- ・地元雇用が増える→経済の好循環
- ・まず富良野をめざそうと思ってもらえる
- ・アニメの聖地

- **主要メンバー**
 - ・JA、民間業社（商工、宿泊）→生産、製造、使用
 - ・富良野他 5 行政→トップセールス
- **協力者**
 - ・作家→脚本 ・観光大使→歌
 - ・様々な地域団体→ロゴの使用等 ・テレビ局→動画配信
- **将来協力者（域内・域外）**
 - ・教育機関→将来にやってもらう（子供）

〇〇実行委員会→ クラウドファンティング

住民 移住して来る人

世界中の人

地域外の人から見ても

のために何をしたいか？

経済的に豊かに暮らせる

スローライフを肯定できる

都会で暮らすだけが豊かでない

御当地アニメの世界に発信

例

日本にふりがあって良かった、と思う

实施体制

ビジョン

施策分野：観光、暮らし
アクション：行っていきたい・住みたいが「両立する」フラノ・エリア

上川南部B

地域の状況整理

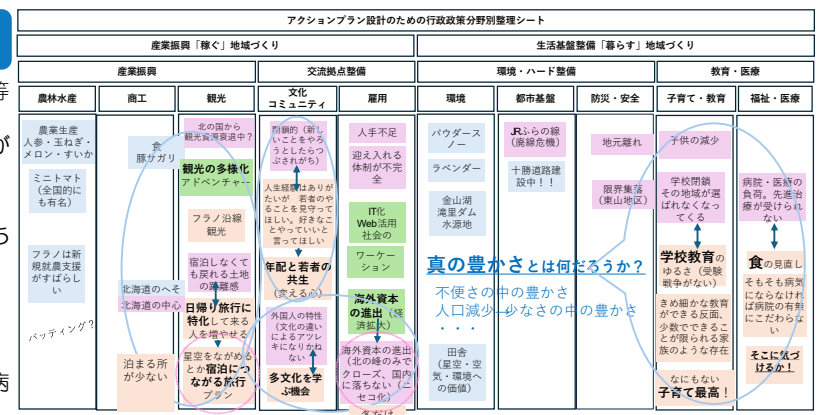
Where どこで



北海道の“へそ”。
JR富良野線廃線の危機を抱える。
広域行政としては占冠から上富良野までであるが、広域観光では占冠から美瑛まで連携している。
ファーム富田などのラベンダー観光、北の国からなどのブランドイメージ。パウダースノーのスキリゾート地。

What なにを

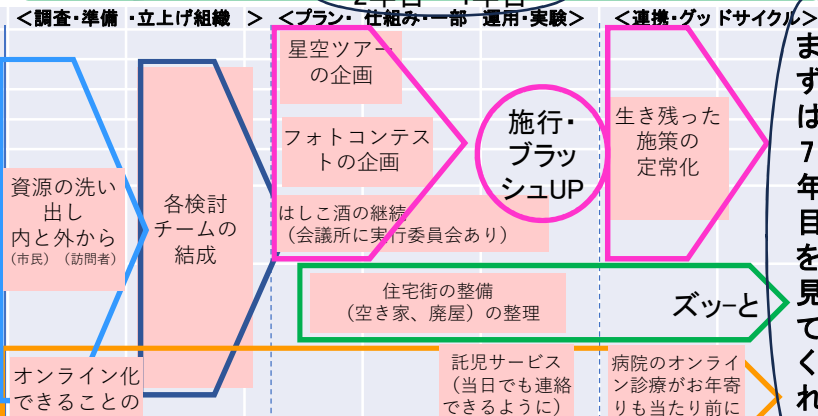
○北海道のへそは、宿泊しなくても札幌等にもどれる距離感の場所でもある。
⇒日帰り旅行に特化するか、宿泊につながる旅行を目指すのか
○外国人・外国資本の進出
⇒文化の違いによる魅力、国内に金が落ちない。一方で多文化を学ぶ機会
○人口減少・少子高齢化、限界集落、学校・病院等公共施設閉鎖
⇒不便の中の豊かさに気づけるか！
学校教育の緩さ・きめ細かさ、そもそも病気になる暮らし(食の見直し)へ



How どのように

- 具体的な活動
- 行ってみようアクション・シリーズ
 - ・色とりどりの観光プラン(星空がきれい体験、自然=緑、雪=白、空=青・漆黒、花=紫、ワニ=赤)
 - ・ここでしか食べられないもの・店の開発
 - 行きたい&住みたいの両立・接点・交流シリーズ
 - ・おもてなし・交流を育む機会・場所の創出
 - ・ロハス(健康的で持続可能な生活様式)体験
 - 住みたいシリーズ(富良野のウェルビーイング)
 - ・真の豊かさ追及プラン(ロハス生活・・・)
 - ・各世代の必要に応じた富良野方式のサービスの充実(保育・託児、病院・介護等々)

When いつ



How どのように

- 目指す地域の姿
- ・ここでしか食べられないもの、体験できないことが満喫できる
 - ・外国人が地元民と交流する機会が多彩にある(富良野には「感謝」の気持ちからくる「おもてなしの心」がある)
 - ・それにより、日本の文化を知ってもらえる場ともなり、ゴミ出しなどルールが守られることが当たり前になる光景に
 - ・逆に諸外国の文化を学ぶ機会も増え、地元の食材を多彩な料理で楽しむ日常が生まれている
 - ・富良野一帯が「真の豊かさ」を実感する終の棲家となっている

実施体制

Who だれが

- 主要メンバー
- 行ってみようシリーズ=広域なので、北海道・国(開発局)が首頭を取る
 - 住みたいシリーズ=各市町村、医療・介護事業者
- 協力者
- 発信=観光協会、地域FM
 - 宿泊事業者(旅館業組合)、飲食店経営者、ツアーコンダクター、不動産会社、(新)富良野高校、富良野地方物産振興会、農協、DMO、商工会議所、町内会

Whom だれに

- 未来の地域づくりの担い手
- 外から来る人
 - 観光客
 - 外国人
 - こだわりの生活を志向する人
 - 内にいる人(住民)
 - 子育て世代
 - 高齢者
 - 若者

Why なぜ

- 「彼ら」のために何をしたいか? どんな将来を目指すのか?
- 自然環境とバランスのとれた状態ある程度の利便性
 - 子どもが将来ここに生まれて住んで良かったと思えるまち
 - 何もしないと暮らしの利便性が損なわれる
 - 自慢できるまち
- 真の豊かさの追求!

施策分野：暮らし、安心・安全

アクション：外から人を呼ぶ×子育て支援プロジェクト～キーワードは「人」・人が支える富良野～

上川南部C

地域の状況整理

Where どこで



概略
旭川・札幌・帯広、周辺都市へ1～2時間で行ける。
JRと国道があって交通利便性が高い。
富良野ブランドが強い。

What なにを

概略
全体的に「稼ぐ」と「暮らす」に満遍なく政策整理が記されている。
合併せず市町村ごとに個性があり、Uターン・の伸びしろがある。外資系ホテルの投資も多く、インバウンドによる観光需要が増加。それらの観光資源を市民に還元する方法を考えるべき。国道やJRなど交通の利便性を高める。スポーツ地域留学。ライドシェアの可能性。

アクションプラン設計のための行政政策分野別整理シート									
産業振興「稼ぐ」地域づくり					生活基盤整備「暮らす」地域づくり				
産業振興		交通拠点整備			環境・ハード整備		教育・医療		
農林水産	商工	観光	文化・コミュニティ	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療
メロン アスパラ	(チーン 店はない) おいしい有 名店が多い	まちなかの スキー場 (海外から 見た魅力) ファーム富 田 ネームバ リュー 11月末～GW スキーリフ ト営業して る インバウ ンド 観光資源で 市民に還元 する方法	合併せず市 町村ごとに 個性がある Uターンの びしろがある	リモート・職 場の選択	パウダース ノー 奥大演習林 125周年(年 間1億木材 売)	国道・JR 交通利便性 札・旭・帯 と1～2時間 で結ばれる JR用地を再 開発できる 駅の裏と表 を平面でつ なげる 廃線跡を聖 地化 沿線住民は 静かな現地 でくらせる ライドシェ ア解禁	除雪がきれい 雪が楽	スポ ツ 地域留学に も貢献(カ ダ・カ リング・少 林寺)	富良野協会 病院から旭 川の病院へ

How どのように

When いつ

How どのように

アクションプラン

具体的な活動	まずやってみる					目指す地域の姿
	1年目 仕組みづくり	2年目 試行	3年目 検証・改善	4年目 検証・改善	5年目 検証、本格実践	
①海外向けプロジェクト ・特定技能実習生向け・外国人向けマッチング ・海外大学生インターンシップ研修	チームづくり 既存の人対象	→	→	→	海外外から 人が定住する	- 子供を支援 ⇒安心して結婚して子どもを作れる ⇒子供を第一に考えて、定着して住むようになる。 - 人と子どもが増えて、活気あるおもしろいフラノになっている
②独身者向けプロジェクト	→	→	→	→	→	
③子育て世帯向けプロジェクト	→	→	→	→	→	
④雇用の創出プロジェクト	→	→	→	→	→	

Who だれが

主体：まちづくり会社、富良野市、農協
看護学校、インフルエンサー

サポート：インターンシップ受入企業（海外）
農協金融（子育て）
JICA、JETRO、日本語学ぶ場、
海外大学の日本語学校、高速インターネット

ビジョン

Whom だれに

地域内	子育て世帯	単身世帯	元気な高齢世帯
地域外	特定技能実習生	海外大学生	子育て世帯のバックアップ

Why なぜ

ふつうなら都会に出る
富良野独自のものを
見出して
もらう
「彼ら」のために何をしたいか？
ジャストサイズの都市富良野で
元気に多様な世代が
おもしろく暮らして
もらいたい。
富良野独自のものを
思い出してもらいたい

・縁があった
・小さい職場で多様な体
験ができる
・都会じゃない富良野
・転勤がない

実施体制

施策分野：観光、暮らし
アクション：スローライフでデトックス体験プロジェクト

上川南部D

地域の状況整理

Where どこで



概略

【自然】美しい山々と川に囲まれた自然豊かな地域
【産業】農業、林業、観光業、アウトドア業など。【活動事業】道の駅特産品として、バイオマス生産組合がメープルシロップ、地域おこし協力隊がクラフトジンを製造。南富良野町にはアウトドアブランド「モンベル」の店舗がオープン。

What なにを

概略

全体的に「稼ぐ」と「暮らす」に満遍なく政策整理が記されており、ラベンダー、アウトドアなどの富良野ブランドを活かした商工観光により外貨を稼ぐ。暮らしの面では車移動前提の社会の不便さを楽しむ、少子高齢化もマンツーマン教育に力を入れられる、高齢者の知識を活用しやすいという発想の転換。

アクションプラン設計のための行政政策分野別整理シート									
産業振興「稼ぐ」地域づくり					生活基盤整備「暮らす」地域づくり				
産業振興		交流拠点整備			環境・ハード整備		教育・医療		
農林水産	商工	観光	文化コミュニティ	雇用	環境	都市基盤	防災・安全	子育て・教育	福祉・医療
温暖化しても新しい種類の作物が採れる	富良野ブランドがある	観光客が多い（道の駅） 良いモノ・サービスが多い インバウンドが多い アウトドアのまちとしてのブランドになる	温暖化しても夏スポーツが楽しめる 非日常を楽しめる 観光客が増えている 外国人労働者は増えている 仕事には困らない	温暖化しても夏スポーツが楽しめる 非日常を楽しめる 観光客が増えている 外国人労働者は増えている 仕事には困らない	豊かな自然資源 外でBBQしやすいまち 雪まつりやスキー場での雪の活用 温暖化しても暖房費が下がって住みやすい 北海道のへそ 9割が湖と森林で大自然がある 不便を楽しむ人には好まれる	建設工事で需要UP 信号が少ないうからランニングができるまち オンラインショッピングしやすい環境 旭川十勝道路の敷設 車移動前提の取組を検討しやすい		マンツーマン教育に力を入れられる サイクリングしやすい環境 地域の独自の支援を行いやすい環境 高齢者の知識を活用しやすい 医療費が無料化で子育て世代の負担が手厚い 公立高校があり、高校が地域活動に参加、アウトドア体験がある	

How どのように

When いつ

How どのように

具体的な活動	2025年	2027年	2029年	2030年	2040年	2050年	2055年	目指す地域の姿	
圏域プロジェクト協議会の設立・試算	声掛け 達成	売上等の管理・見直しの旗振り				実施し 続ける・ 随時見 直し		- 観光客が来る地域の方がいいよねと住民が思える - ホテル業の人手不足を圧迫しない - 日常を案内して地域の価値に変える・見つける - 住んでる地域を褒められる経験づくり - 観光関連業者以外の住民にも具体的なメリットがある - 魅力が見つかる→プレイヤーが増える循環 - 日本人口の0.01%でも地域に興味を持つ人を増やす - 最終的には圏域コンシェルジュ構想 - プロジェクト協議会に移住者が入ってくる - 移住者が移住者と呼ぶプロジェクトづくり	
地域住民・キーマン向け説明会		説明会実施							
ハード整備							整備実施・継続		
運営体制の整備		検討		実施					
体験者の窓口づくり・広報		検討	実施						
移住したいと思った人のフォロー		検討		実施					
プロジェクト実施 人口が増えて、生活が豊かになる経済圏形成！				実験			目標達成・継続		

Who だれが

主体：観光協会・商工会、若手農商工業者
地元重鎮、宿泊場所提供者、市町村
旅行関係者、地域おこし協力隊等
サポート：地元建設業者・広告代理店、
アイヌ協会、地元詳しい人、
国、道、信金、会計業者等

Whom だれに

- ・地域に住んでいる一般の住民
- ・デトックスしたい、都会に疲れている方
- ・田舎暮らしを体験したい人

Why なぜ

- 「彼ら」のために何をしたいか？
- ・地域内の生活に支障が出ないような経済圏をつくる
 - ・地域の住民が元気になる
 - ・地域外の人に日々の喧騒を忘れて健康になってもらう非日常的な機会
 - ・旅行だけではわからない地域の価値の理解

実施体制

ビジョン